



ロープのように長く成長したナガミル

▶ロープに生えたミル



ミルを円形に広げた模様「海松紋」の皿（上田陶石合資会社 高浜焼寿芳齋提供）

おもしろ生き物図鑑

かごしま水族館から

色も形もさまざまな海藻。たちの中で、今回は緑藻の仲間「ミル」を紹介しつゝ、海岸に打ち上がっているのを見たことがあるかもしれませ

ん。表面はフェルトのよう

で、つまむと弾力があり、何とも言えない感触です。

ミルの仲間は20種ほどおり、鹿児島島の海でよく見られるのは、ミル、クロミル、ナガ

ミル、ヒゲミルなどです。中で和歌集「万葉集」にも登場

ミル、ヒゲミルなどです。中で和歌集「万葉集」にも登場

もナガミルはユニークな姿をしています。名前通り長く成長し、時には10倍以上になります。その姿はまるで海底に横たわるロープ。水中で縄跳びができてそうです。

ミルの仲間は、はるか昔から人々に愛されてきました。漢字で「海松」と書き、最古の和歌集「万葉集」にも登場

古くから愛される海藻

ミル

学名 *Codium fragile*

分類 緑藻綱ミル目ミル科
大きさ 10～40センチほど
分布 本州から九州の広い範囲
特徴 海岸の岩や船の係留ロープなどの浅い場所でも観察することができる。ミルの仲間は似たものが多く、一見して種の判別が難しい場合があるが、表面の細胞（小囊）がそれぞれ特徴を持つため、顕微鏡下で細胞を観察すると判別することができる。ミルの表面の細胞は先端が尖っていて非常にわかりやすい。



顕微鏡で見たミルの細胞

します。その姿が松の葉のように分岐していることから、この字を当てたといわれています。ミルを円形に広げた形は「海松紋」として着物や焼き物などに使われています。

その深みのある独特な緑色は「海松色」「海松茶色」という日本の伝統色として、現在でも使われています。

食用としても平安時代から利用されています。現代の日本ではあまりメジャーではありませんが、韓国ではキムチに入れる地域があったり、ハワイやフィリピンではミルの仲間をサラダにしたりして、今も食べられています。

古くからさまざまな用途で広い地域で愛されるミル。鹿児島の中でも見られるので、見かたときには形や色感触を楽しんでください。（展示課魚類展示係・堀江諒）